

# 巻頭言



京都市長 松井 孝治

## 「突き抜ける世界都市 京都」 —平和と共生を目指して—

本年2月、私は沖縄県宜野湾市嘉数の丘にある「沖縄京都の塔」を訪れ、苛烈を極めた沖縄戦での戦没者の皆様に、哀悼の誠を捧げました。今なお現地に残る激戦の痕跡に、悲痛の念が胸に迫ってまいりました。

我が国は、まもなく戦後80年を迎えようとしています。一方、世界に目を向けると、国家間の対立や紛争が、大きな孤立と分断をもたらしています。こうした状況に憂慮し、深く心を痛めるとともに、一刻も早い事態の収束を願ってやみません。

京都市は、1978年に全世界の人々があらゆる違いを超えて平和のうちに自由に集い、文化交流を行う「世界文化自由都市」を都市の最上位理念に掲げ、以降文化を基軸としたまちづくりを進めてまいりました。

平和を実現するには、望むだけではなく行動することが重要です。京都市では「世界歴史都市連盟」の事務局として、世界65カ国・地域の135都市と連携をしながら、「歴史都市の保存と開発」という共通の課題に取り組むことで交流を深めています。昨年11月には、スロベニアのリュブリャナ市において第19回会議を開催し、「活気ある歩きやすい市街地づくり」をテーマに活発な議論が交わされました。私も同連盟の会長として現地を訪れ、人と環境に優しい先進的な都市交通のあり方を視察するとともに、都市と都市が手を携えて、課題解決に取り組んでいくことの重要性を改めて実感したところです。

世界の先行きが見通せない今、平和な社会の実現に向けては、あらゆる垣根を低くして、人と人、組織と組織、都市と都市がつながって、多彩な主体や担い手を結び付けていくことが重要です。京都市としても、引き続き戦禍に苦しむ姉妹都市ウクライナ・キーウ市への継続的な支援をはじめ、世界の都市との交流を続けてまいります。

さて、京都は150カ国以上の国と地域の外国籍市民の方が約6万人暮らし、学生の約1割を占める約1万8,000人が留学生という国際性と多様性にあふれたまちです。外国籍市民の数は3年連続で過去最高を更新するなど、多彩な方々が京都にお越しくださっていることを嬉しく思っています。

京都は長い歴史の中で世界中から集まった多彩な人や文化、匠の技が交ざり合い、文化や産業を発展させてきたまちです。今後も世界から多様な人材や企業を引き付け、まちの活力につなげていくことが重要です。京都市では、海外からの相談対応や行政手続き支援など、多様化するニーズに応えることができるよう、さらなる受入環境の充実を図ってまいります。そして、さまざまなチャレンジを重ねながら、誰もが幸せを感じ、互いにつながり、支え合い、生きがいを持って活躍できる「突き抜ける世界都市 京都」の実現に取り組んでまいります。